

秋の出番

いよいよ色鮮やかな秋がやってきました。今年は、夏の高温やナラ枯れの被害などの影響はありそうですが、その影響が比較的少ない秋川溪谷などの川沿いで、広葉樹の代表木や草むらが徐々に色づき始めています。

今回は秋の到来を感じながら、最近の話題や危険について紹介します。これからも、自然をよく理解し、安全にあきる野を満喫しましょう！



あきる野 の 新発見！！

今年のレンジャーの調査で確認した生き物の内、市内初確認とされる2種類を発見することができました。

エゾミドリシジミ



「ゼフィルス」と言われるミドリシジミ(チョウ)の仲間は、梅雨の印象的な生き物です。今年6月に養沢地区の奥山で、この美しいエゾミドリシジミを初めて確認しました。樹上性の小さなチョウであるため、他のミドリシジミとの区別ができる特徴を抑えるまでは困難でした。

シラキトビナナフシ



8月中旬、養沢地区の奥山のミズナラが多く見られる森(エゾミドリシジミと同じく)で、この面白いナナフシの仲間を発見しました。シラキトビナナフシは、茶色い背線や前足の黄色い部分などが主な特徴です。都内での記録は非常に少なく、あまり見られないようです。

チマちゃんに注意！！



どーもどーも、チマちゃんです！

おいらは、マダニの仲間のチマダニという生き物です。

その名の通り、生物を吸血するダニなのよ～。おいらチマダニ属は、あきる野で見られるマダニの仲間でもっとも多い種類です。

人間どもは気を付けないと、おいらチマダニがちっくんするよ～。ハハハ！ちっくん！！

血を少し分けてもらうのは別にいいだろうけど、実はおいらは、いろいろな感染症を媒介するよ～。おいらはそのつもりはなくても、どうもそうになってしまうかも知れないよ～。だから魔？のダニ→マダニね！

おいらは、草や葉っぱの裏でジーっとしていて、哺乳類などが通る時に爪を引っ掛け、その生き物の皮膚の柔らかいところで何日もくっついて吸血することになるよ～。

パブロ レンジャーより

林内外の草むらでは特にマダニが多く、春と秋は生息密度のピークになります。

西日本ではマダニによる被害（感染症などの）が特に多く、近年は関東地方でも被害が増えています。シカなどの哺乳類の増加に伴う高密度化により、マダニなどの寄生虫が急増しているようです。市内では、特に2019年からマダニの増加が目立ち、採集した個体数の記録により、今年9月は2019年9月に比べて60倍ほど多くなりました。

野外活動をする場合は、装備を要チェックです。短パン、半そで、サンダルなど、皮膚を露出をする格好は被害にあいやすいのでNGです！



ナラ枯れについて

市全体で発生しているナラ枯れ（カシノナガキクイムシが媒介する菌によるブナ科の一部の樹木の感染症）の被害が急拡大しているため、コナラなどの大径の枯れ木が多発しています。主に丘陵地帯（市の東部）では危険木が多くみられるため、ハイキングなどの林内での活動の際に枝などの落下物に十分注意してください。（*詳しくは市のHPなどをご覧ください）

